

虐待防止委員会

目標

正しい知識と虐待の芽となる言動・態度、身体拘束の適正化を理解した判断力を持ち質の高いサービス提供を目指していきます

1. 適切な言動や態度を心掛け、お互いに注意し合う事で、相手との関係を円滑に保つことができる環境をつくる
2. ご意見箱を活用し、分析結果を共有して利用者様に質の高い接遇とサービスの提供し、職員同士が丁寧なコミュニケーションを築けるように努める
3. 身体拘束の必要性のアセスメントを明確に正しく理解した行動と記録ができる
4. 虐待や身体拘束を防ぐための注意喚起のポスターを作成し職員自ら考え、振り返る機会を提供する

年間計画

1. 全職員に月1回ご意見箱に自由記載で投函できるよう個人名を記入した用紙を直接手渡しし、ユニットリーダーに協力を得て朝礼を利用して投函の周知をしていく
2. 投函内容は事業推進、管理者、各会議にて情報を確認、速やかに改善に向けた意見交換を行い改善対策、実行、結果などを評価し会議録に残す。投函内容は毎月職員玄関に掲示し投函率、内容の分類を行い年間目標の評価に活かしていく
3. 高齢者虐待、身体拘束の研修を実施する(外部講師の検討)
4. 身体拘束の適正化に向けた取り組みとして身体拘束者の切迫性、非代替性、一時性を把握し現状をアセスメントし、不適正な点がある場合は正しく修正し再確認していく
5. 高齢者虐待、身体拘束に関するポスターの作成する年2回(8月・2月)